

TPA 誘発炎症モデルにおける寒天由来アガロオリゴ糖の *in vivo* 抗炎症作用

【目的】 昨年の本大会において、寒天の主成分であるアガロースを酸加水分解することにより生成するアガロオリゴ糖が、*in vitro* において LPS 刺激したマウスマクロファージ細胞株 RAW264.7 からの NO 産生を抑制することを報告した。今回、マウスに投与したときの作用について、発がんプロモーターである TPA による炎症モデルを用いて検討した。

【結果】 マウス腹腔マクロファージの LPS または TPA 刺激による NO または PGE<sub>2</sub> 産生はアガロオリゴ糖の飲水摂取により抑制された。TPA 誘発マウス耳浮腫モデルにおいて、飲水摂取または局所塗布により、浮腫抑制および炎症部位の PGE<sub>2</sub> 量の低下が認められた。

【考察】 アガロオリゴ糖は発がん物質による炎症性メディエーターの遊離を抑制することにより、発がんを抑制する可能性が推測された。現在、TPA による 2 段階発癌モデルにおける検討を行っており、この結果も合わせて報告する。